



ワークライフバランスの取り組み

～桜ヶ丘中央病院の仕事と 育児の両立への取り組み～

桜ヶ丘中央病院 金田拓人氏 川越潤一氏
(インタビュー 熊切博美)

会員ライフサポート部
活動報告 第58報
職場環境を考える

現在全国で10万人の理学療法士がいる中、21歳から35歳の若い世代の理学療法士は7割となっています。様々な施設で産休・育休を取得する職員がおり、両親共働きで職場復帰する人も増えてきています。その中で、病院全体でワークライフバランスに取り組んでいる桜ヶ丘中央病院にお話を伺いました。

Q1、病院紹介をお願いします

A1. 当院は大和市にある171床の病院です。
一般病棟と障害者病棟と回復期病棟のケアミックスで訪問リハビリや外来リハビリも実施している病院です。

Q2、職員紹介をお願いします

A2. 常勤理学療法士56人
作業療法士15人
言語聴覚士15人が在籍しています。
既婚者20人 育休4人 15人が子育て中です。

Q3、職員の産休、育休の取得状況は？

A3. 産休育休に関しては規定期間の取得が可能になっています。

現在4人のスタッフが育休中となっていて基本は満期まで取得予定です。しかし、育休に関しては取得日数それぞれで家庭の状況（金銭面等）に応じて相談の上で本人の希望で早めに戻るスタッフもいます。

Q4、職員が子育てしながら働きやすい環境をどのように整備されていますか？

A4. 院内環境として、当院は院付属の託児所があり、勤務年数や家庭の状況などの項目を満たしている場合に利用する事が可能となっています。現在3名のリハ科スタッフが利用しています。短時間勤務（時短勤務）は育休明けに大部分のスタッフが利用しており、復帰後規定に沿って利用している状況です。また勤務中に急な子どもの体調不良がある場合には、子どもの体調などを考えると業務が進められないなどの場合がありますが、小児科があるため診察への早い対応が可能になっています。

リハビリテーション科として、育休明けから復帰直後の対応はまず業務の見学を行ってもらいます。そして、時短勤務のスタッフは単位数の上限を減らすこと、介助量の少ない患者を見ること、臨床に不安のある新人についてもらい補助をしてもらうことで徐々に仕事に慣れる

ことが出来るように対応をしています。

また、チーム制になっているため各チーム編成にあたり、子どものいるスタッフを分散させています。そうすることで、子どもの急な体調不良で保育園へ迎えに行く場合の業務のフォローを、周りのスタッフが行いやすいようにしています。

当院は回復期病棟もあり365日稼働の為、日曜出勤が必要になります。土日祝日は子どもを保育園に預けることができないため、必然的に若いスタッフの日・祝日出勤が多くなることがありました。そのため、病院の協力を得て、共働きのスタッフが日・祝日出勤に託児所に子どもを預けることが出来るように対応してもらっています。そうすることで共働きのスタッフと他のスタッフの差を軽減しています。

リハビリ個別業務以外の会議などは、これまで業務時間外や遅い時間に行っていました。しかし、少しでも子育て中のスタッフが参加して意見を聴取出来るように、一部は昼の時間で開催しています。

教育面では、子育て中でも、研修などに参加したいという意欲的なリハスタッフもいます。他スタッフと同じ対応が出来るように、勤務での研修となる場合には託児所の使用も考慮して対応しています。実際に「がんリハの研修」には、子どもを当院の託児所に預けて参加していただきました。

また4歳以降の子どもは託児所だけでなく幼稚園に通うことも可能です。しかし、幼稚園の場合、朝に子どもを送ってからでは出勤時間に間に合わないことがあります。その場合には子どもを一時的に当院の託児所に預けて、保育士が幼稚園バスの送迎に対応することが出来ます。現在も2名ほど利用しています。

全体として、育児と仕事の両立への対応が出来るようになったのは、リハ科の人員を増やせたことが大きいと考えています。人員が増えたことでスタッフそれぞれの家庭や体調を踏まえた対応が出来ます。子育てをしているスタッフも同様です。

子育て中のお母さんだけでなく、お父さんも子どもの体調不良時には、仕事を早退して子どもを迎えに行くことも出来ています。また今年からの地域支援プロジェクトチームの活動の中で子育て中のお母さんたちへの支援も行っていて、当院の子育て中のスタッフが活躍できる場も出来てきています。

また、全スタッフには次年度の方針発表時に、家庭をもつスタッフへの理解に関する内容を盛り込んで伝えています。しかし、決して一方通行のものではなくお互い「持ちつ持たれつ」の関係をイメージしてもらうようにしています。

Q5、管理者の立場として子育てしながら働くことをどのように考えていますか？

A5. 子育てセラピストが在籍することについてメリット・デメリットで考えたことがないので難しいですが、メリットとしては多少の慣らし期間は必要なものの、ほぼ即戦力として復帰してもらえるところではないかと思いません。

デメリットとしては子供の体調等で急遽休まないといけなくなる場合に出勤者数がマイナスになってしまうことでしょうか。フォローできる体制であればよいでしょうが、人員的に厳しいところであれば対応に苦慮する場合もあるかと思えますし、子育てスタッフ自身にとってそれが後ろめたくなってしまうことはデメリットにつながってしまうように思います。

現在子育てをしているスタッフが2割近くいて、ほとんどが夫婦共に働いている状況です。若いスタッフも多く在籍しており、これからどんどん増えていくことが予想されます。産休育休に入ることで一時的に人手としては減少してしまいますが、現在まで育休明けで在勤しているスタッフが多く、復帰後は時間の制約がある中で、効率よく働かれています。 「何時までに迎えに行かなきゃいけない」、「いつまでに帰らなきゃいけない」と制約がある分、勤務内でしっかり仕事を行う姿勢は特に際立っていると感じます。人員が増えたことで業務負担の分散もでき、働き易くなっています。しかしその反面、人員を増やしていくことで管理側としては成果が求められます。まずはしっかりと時間内で業務を行って、残業を減らすことが必要と考えています。その中で、子育て中のスタッフの業務姿勢は大きな見本となっていると思います。また全体の残業を減らせば子育てスタッフ以外との業務差を感じなくなるとも考えています。

回復期病棟では新人が多くなる傾向が当院でもありま

す。育休後に、復帰して職場に戻ってきていただけることで、新人が多い当院では、教育に当たってもらえることなど、経験があることで出来る業務は沢山あります。女性が半分以上を占めている状況で若い20代のスタッフも多くいます。今後の不安などもあると思いますが、先輩が沢山いることで安心感はあるのではないかと思います。また長く勤めていただくことで、新たな託児所の範囲の拡大などが出来ると思います。スタッフがいないとリハビリは成り立たない仕事です。そのために色々な状況下で働ける環境づくりはスタッフを維持していくためには必要であると考えています。

Q6、今後の課題などはありますか？

A6. 復職に関して院内の託児所が必ずしも全員使えるわけではない点、子育て中に復帰するスタッフが必ずしも託児所の利用を希望するわけではない点、そもそも現状として保育園または託児所を利用できなければ復職も出来ないという大前提があることが課題であり問題であると思えます。

また、男性スタッフの育休取得は前例もなく、今後そのような事例があった場合の対応がまだ不十分になっていることです。

産休育休制度や時短勤務などについては周知がまだ不十分に感じています。また復帰後の対応方法がまだ確立していない課題もあります。

スタッフの業務量など、一方が負担するのではなく、スタッフ全員が相互に支え合える環境ですね。子育てに限らず、職員全体のワークライフバランスを真摯に考え、そして実際に取り組んでいて、本当に参考になりました！ありがとうございました！



新婚さんのスタッフにも伺いました。これから育休、産休、子育てと仕事の両立を考えると、安心または不安なことがあれば教えてください。

現在の職場では、産休・育休を経て復帰し、頑張っている女性スタッフが先輩・後輩ともにいるため、両立していけるイメージは持ちやすい環境だと思えます。

しかし、新婚生活を送るなかで、環境も変化し、家事もこなすことは大変です。

今現在は業務が終わらずに帰りが遅くなったりすることがあるため、主人と協力して買い物や晩御飯の支度を行って

ます。長く勤めている職場なので、結婚して共働きをしているスタッフも多いため、男女問わずに理解者やアドバイスをくれる方も多く助かっています。これから、産休・育休を迎えるのに1年間で復帰してくることは保育園の待機等のニュースを耳にすると難しいのかなあという印象ですが、その中で院内に託児所があることは大きな安心感です。

不安なことは、今と同じような仕事が出来なくなってしまうのではないかということです。主任という立場で、今までしていたような業務内容がこなせるかどうか、万全な体調で、安心して仕事を続けることができるかどうかです。上司からは、いつそうなってもいいように後輩の育成や業務の引継ぎ

等を促されていますが、まだ葛藤もあります。また、復帰した際には1年のブランクがあるなかで、自分自身の技術に対する不安も出てくると思います。自分のライフスタイルや、価値観に変化が出てきたときに、仕事に対する姿勢を自分自身が誇れる形で実現していくことができたら素敵だと思います。

新婚さんの不安を直接聞く機会があまりなかったのも、とても新鮮でした。色々な方々に、このような不安があっても仕事を続けたいと思う気持ちを、知っていただきたいですね。本当にありがとうございました。



がんの治療に幅広く対応した、アフラックのがん保険。

生きるためのがん保険 Days

NEW/がんを患われた方へ
生きるためのがん保険
寄りそうDays



はじめてダック

お問合せ先

募集代理店

国際保険株式会社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 DSビル4F

0120-5931-98

引受保険会社

Aflac

首都圏総合支社
東京都新宿区西新宿1-23-7
新宿ファーストウエスト17F
Tel.03-3344-1580

重大疾病^{*}にも強くなった。

*[がん・脳卒中・急性心筋梗塞](三大疾病)のことを指します。

ちゃんと応える
医療保険
EVER

ちゃんと応える
医療保険
やさしいEVER

〈特約を付加した場合〉

